



Better Health, Brighter Future

CORPORATE PROFILE 2018

【製品情報に関する注意事項】

本会社案内には、武田薬品の製品についての情報が含まれていますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではなく、また国によって異なる商標、効能、用量などで販売されている場合もあります。また、本会社案内に記載されている医薬品（開発品を含む）の情報は、そのような製品を宣伝・広告するものではありません。会社案内に記載されている製品に関する情報は、医学的アドバイスの提供を目的とするものではなく、決して、医師その他医療従事者によるアドバイスの代わりになるものではありません。

「アイクルシグ/Iclusig」、「アリナミン/Alinamin」、「アルンブリグ/Alunbrig」、「アジルバ/Azilva」、「デクスラント/Dexilant」、「エンティビオ」ならびにエンタイビオ/Entyvio」、「ロトリガ/Lotriga」、「ルプロン/Lupron」、「ニンラーロ/Ninlaro」、「パンビタン/Panvitan」、「ロゼレム/Roserem」、「タケキャブ/Takecab」および「ベルケイド/Velcade」は、武田薬品工業株式会社またはその子会社の日本およびその他の国における商標または商標登録です。「アドセトリス/Adcetris」は、Seattle Genetics, Inc.の米国およびカナダにおける登録商標です。「アミティーザ/Amitiza」は、Sucampo ACの米国およびその他の国における商標または登録商標です。「コパキソン/Copaxone」は、Teva Pharmaceutical Industries Ltdのイスラエルおよびその他の国における商標または登録商標です。「トリンテリックス/Trintellix」は、H.Lundbeck A/Sのデンマークおよびその他の国における商標または登録商標です。「ベクティビックス/Vectibix」は、Immunex Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

武田薬品工業株式会社

CONTENTS

01 — OUR VALUES
価値観

02 — OUR PEOPLE
世界中の人々・仲間

03 — RESEARCH & DEVELOPMENT
研究開発

04 — BUSINESS PERFORMANCE
事業の持続的成長

タケダについて	3
タケダの伝統、そして未来へ	8
社長CEOメッセージ	16
コーポレート・ガバナンスと取締役体制	18
タケダ・エグゼクティブ・チーム	20
多様な人材	22
次世代リーダー育成への取り組み	24
研究開発への取り組み	28
R&D パートナースhipとコラボレーション	30
2017年度地域別の実質的な売上収益	34
タケダの成長ドライバー	35
企業の社会的責任	36
グローバルCSRプログラム	38
医薬品アクセスへの取り組み	40



2018年7月、東京日本橋本町にグローバル本社
がオープンしました。クリエイティブディレクター
佐藤可士和氏によるデザインコンセプトは、人間の
『生きる力』。各エリアに漢字をモチーフとした
アートワークが配置され、1階エントランスには
豊かな外光からの「光」と「水」をたたえた水盤
があり、生命の源を表現しています。
グローバル本社は、日本で生まれ世界へ広がる
タケダの揺るぎない企業アイデンティティと価値観
を次世代へと継承します。ここで多様性に富む約3万
人の従業員がオープンに繋がり、イノベーション
創出に取り組みます。
[https://www.takeda.com/jp/who-we-are/
how-we-work/](https://www.takeda.com/jp/who-we-are/how-we-work/)

タケダについて

WHO WE ARE

237年の歴史をもつタケダは、常に患者さんを中心に考え、
イノベーション創出に立脚したグローバル製薬企業として、
世界中の人々により健やかで輝かしい未来をお届けすることを目指しています。
タケダイズム、それはタケダが創業時から大切に守ってきた
価値観のうえに培った経営の基本精神。
この揺るぎない基本精神が、ビジョン2025*実現に向けた取り組みを支えています。

* 2025年までに実現を目指す未来の姿。13ページ参照。

タケダイズムと私たちの優先順位



私たちは、4つの重要事項について、その優先順位に従って考え、
行動や判断の基準とします。

1 常に患者さんを中心と考えます

2 社会との信頼関係を築きます

3 レピュテーションを向上させます

4 1,2,3を実現したうえで、事業を発展させます

Better Health, Brighter Future

01 OUR VALUES

価値観

タケダイズムと私たちの優先順位



神戸市から約7km東にある武田資料館（銚子居・かんそうきょ）は、1932年に六代目長兵衛の住居として建てられました。外観は英国のチューダー様式を基調としていますが、内部構造は日本独自の伝統的な木造建築で造られており、地震に耐える柔軟性と強度を備えています。

タケダの伝統、そして未来へ

OUR HERITAGE, OUR FUTURE

革新的な医薬品・ワクチンの創出を通じて患者さんのニーズに応える

初代近江屋長兵衛が大阪で和漢薬の商いを始めたのは1781年。高い品質の薬を提供し続けることにこだわり抜き、いかなるときも自らの仕事に誠実に取り組むという創業者が遺した事業のあるべき姿勢は、タケダの経営哲学として深く根付いており、今日まで継承されています。



くすりの町、道修町^{どしやうまち}

大阪・道修町は、タケダ創業の江戸時代から全国でも指折りの貿易港に近く、薬種取引の一大中心地でした。
初代近江屋長兵衛は、14歳の時、この道修町の薬種仲買商へ奉公に出されました。その勤勉な働きぶりが認められ、後にのれん分けを許されることになりました。

京都薬用植物園における生物多様性保全への取り組み

1933年の設立以来、世界各地から薬用・有用植物を収集栽培し、絶滅危惧種を含む植物を未来につなぐ保全活動や研究活動を続けています。保有する約2,600種の植物のうち、約200種が絶滅危惧種です。
(2017年6月末時点)

FOUNDATION

初代近江屋長兵衛が大阪で薬種仲買商を始め、高品質の薬を提供

1781

PRODUCTION

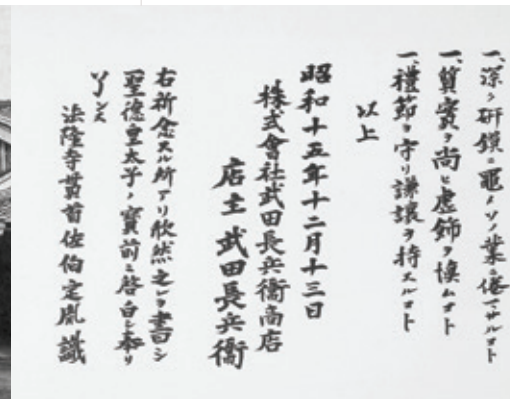
自社工場で製薬事業を開始

1895

TAKEDA GARDEN FOR MEDICINAL PLANT CONSERVATION

「京都薬用植物園」を開設し、世界各地の薬用・有用植物を収集・活用

1933



1871

INTERNATIONAL TRADE

洋薬（西洋医薬品）の輸入を開始

1914

RESEARCH

タケダ研究部を設立、研究活動を開始

1940

"NORI" PRINCIPLES

タケダイズムの礎となる「規（のり）」を制定

「規（のり）」五代目長兵衛が定めた社是

企業の社会的責任を重んじ、事業の根幹とは人にある、と明記したこの社是が示す理念は、今日の経営の基本精神にも脈々と受け継がれています。

「規（のり）」が示す5つの指針の要点

- 公に奉ずること
- 質実を尊ぶこと
- 力を合わせる
- 礼節を守ること
- 深く研鑽に努めること

がん撲滅を目指して創薬イノベーションを加速

がん領域におけるグローバルリーダーを目指すタケダは、バイオベンチャーだったミレニアム社を統合し、同領域の研究開発力や、がん領域のみならず炎症性疾患領域の新薬候補群をさらに強化しました。当社の代表的なグローバル製品となった革新的新薬である「エンティビオ®」（ベドリズマブ）や「ニンラーロ」（イクサゾミブ）はミレニアム社が創製したものです。
※国内製品名：「エンタイビオ」

PANVITAN® 日本初の総合ビタミン剤 「パンピタン」を発売	SHOSHISHA FOUNDATION 優秀な学生を支援し将来の社会に 貢献できるよう、育英事業を目的とする 「尚志社」を設立	TAKEDA SCIENCE FOUNDATION 有望な研究および科学技術の助成振興 のため「武田科学振興財団」を設立	MILLENNIUM バイオベンチャーの米国ミレニアム社を 買収し、がん領域を強化	TAKEDA INITIATIVE アフリカの保健医療人材の育成を支援 する「タケダ・イニシアティブ」を開始	ENTYVIO® 潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤 「エンティビオ®」を欧州・米国で発売
1950	1960	1963	2008	2010	2014



1954 ALINAMIN® ビタミンB1誘導体 「アリナミン」を発売	1962 OUTSIDE JAPAN 海外市場に進出	1980's-1990's GLOBALIZATION 4つの国際戦略製品 「リュープロレリン」、 「ランソプラゾール」、 「カンデサルタン」、 「ビオグリタゾン」 によりグローバル事業の 拡大が加速	2009 UNITED NATIONS GLOBAL COMPACT 「国連グローバル・コンパクト」に参加し、2011年には「LEADプログラム」のメンバーに	2011 NYCOMED 新興国に強い販路を持つナイコメッド社を統合し、事業基盤を70ヵ国以上に拡大	2015 TAKEDA AND CiRA 京都大学iPS細胞研究所（CiRA）との共同研究プログラムT-CiRAを開始し、iPS細胞技術の臨床応用を目指す
事業のグローバル展開 日本国内で製薬トップブランドとしての地位を揺るぎないものにしたタケダは、1960年代から本格的に海外事業を展開。アジア・欧州・米国で現地法人を設立し、国境を越えた創薬研究協力にも取り組みました。輸出量が増加するなかで、4つの革新的新薬を海外市場にも投入、タケダはグローバル製薬企業としての基盤を確立していきました。			ナイコメッド社の統合、グローバリゼーションを加速 スイスの製薬会社、ナイコメッド社との統合により、日本と米国に集中していたグローバル事業を、欧州と新興国にも拡大しました。70ヵ国以上にタケダグループの拠点を置くことで、よりバランスのとれた地域別売り上げ・従業員構成になり、安定的かつ機動的なグローバル事業運営体制の構築を一気に進めました。		京都大学iPS細胞研究所とタケダが築いた独自の共同研究 タケダは、世界初のiPS細胞に特化した研究機関である京都大学iPS細胞研究所（CiRA）と、10年間にわたる共同研究（T-CiRA）をスタートしました。タケダの湘南研究所を拠点に最先端の科学・医療技術を集め、iPS細胞を使った革新的な細胞治療・新薬開発・新薬安全性試験の研究開発に取り組んでいます。T-CiRAプログラムは、幹細胞の研究でノーベル賞を受賞したCiRAの山中伸弥教授が指揮しています。

革新的な医薬品を創出し続けるためにビジネスモデルを変革

タケダは革新的な医薬品の創出に向けた取り組みをより一層強化するため、様々なビジネスモデルの転換を推し進めています。

日本では、ジェネリック医薬品への患者さんのニーズ、および医療費抑制への社会的要請の高まりに対応するため、テバ社との合併会社を設立し、テバ社のジェネリック医薬品とタケダの特許期間満了医薬品の日本における取り扱いを開始しました。

NINLARO®

多発性骨髄腫治療剤「ニンラーロ」を米国で発売

2015

TAKEDA-TEVA

日本においてテバ社との合併会社の特許期間を満了した医薬品を承継し、革新的な新薬に集中する

2016

ARIAD

アリアド社買収により、オンコロジー（がん）領域における製品構成ならびに製品パイプライン（新薬候補物質）を固形がん領域にも拡大

2017



2016

VISION 2025

タケダの目指す未来の姿として、「ビジョン2025」を制定

2017

ALUNBRIG™

肺癌治療剤「アルンブリグ」が米国で承認

2018

SHONAN iPark

湘南ヘルスイノベーションパークをグランドオープン

湘南ヘルスイノベーションパーク（湘南アイパーク）をグランドオープン

湘南アイパークは、タケダのR&D拠点の一つである湘南研究所を、ベンチャーセグメントを含む産官学に開放したヘルスイノベーションパーク。ヘルスケアに関わる大学などの研究機関はもとより、ベンチャー企業、病院、自治体といったパートナーが入居。日本初の製薬企業主導によるオープンでイノベティブなエコシステムの醸成を目指し、アントレプレナーシップ及びパートナーシップを推進中。



TO OUR FUTURE

私たちの未来へ

VISION 2025

ビジョン2025

タケダが2025年までに実現を目指す未来の姿

タケダは、世界のあらゆる人々のニーズに貢献しています。

タケダイズムを通じ、社会やタケダの医薬品を必要とする方々からの信頼を得ています。

機動性とイノベーション、さらに高い品質に支えられ、強固なパイプラインのもと成長し続けるベスト・イン・クラスの製薬企業として認められています。





世界中で約3万人の仲間が働いています。
仕事への情熱、高いスキル、豊富な知見。
従業員一人ひとりの成長が、タケダの未来
への原動力です。

02 OUR PEOPLE

世界中の人々・仲間

人材育成への取り組み

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

クリストフ・ウェバー社長CEOメッセージ

A MESSAGE FROM OUR CEO

「患者さんのために、これまで以上に何ができるか？」
タケダでは、全てがこの問いかけから始まります。



タケダは、日本発グローバル製薬企業として、伝統に培われた揺るぎない価値観に基づき、患者さんにとってより価値の高い革新的な医薬品を創出し、世界中にお届けするという使命を誠実に果たすことに全力で取り組んでいます。

私たちは、2016年に打ち出したビジョン2025において、オンコロジー（がん）、消化器系疾患、ニューロサイエンス（神経・精神疾患）、そしてワクチンの領域で、世界トップレベルになるという目標を掲げ、変革を加速しています。当社は引き続き、全社一丸となりこのビジョンの実現に向けて取り組んでまいります。

クリストフ・ウェバー
代表取締役 社長 CEO

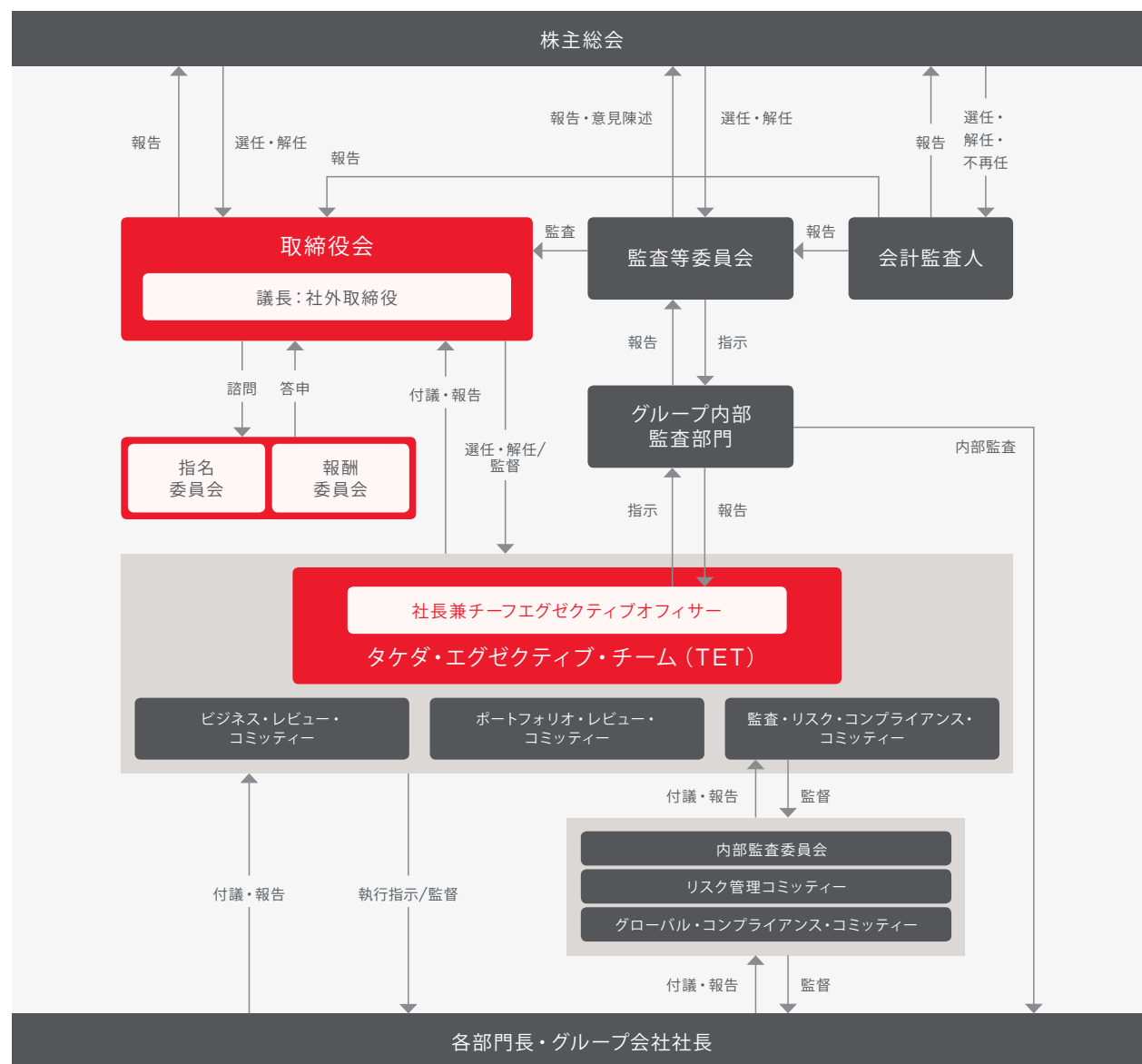
クリストフ・ウェバーについて

2014年入社し同年に社長就任。前職ではグラクソ・スミスクライン（GSK）の上級管理職として、GSKワクチン社の社長兼ゼネラルマネージャーや、GSKグローバルコーポレートのエグゼクティブチームメンバー等を歴任。これまでに世界9か国に在住しながら築いたマネジメント経験と真のグローバルリーダーシップをタケダにもたらす。
フランス・リヨン大学で医薬品マーケティングと会計・財政学の修士号を取得した後、薬学と薬物動態学の博士号を取得。フランス生まれ。

コーポレート・ガバナンスと取締役体制

CORPORATE GOVERNANCE AND BOARD OF DIRECTORS

タケダは、グローバルに展開する世界的製薬企業にふさわしい事業運営体制の構築に取り組んでいます。健全性と透明性が確保された迅速な意思決定を可能とする体制の整備を進めるとともに、コンプライアンスの徹底やリスク管理を含めた内部統制の強化を図っています。



社内取締役



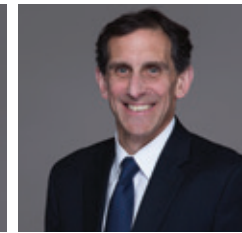
クリストフ・ウェバー

代表取締役社長
チーフエグゼクティブ
オフィサー（CEO）



岩崎 真人

取締役
ジャパン ファーマ
ビジネス ユニット
プレジデント



アンドリュー・プランプ

取締役
チーフ メディカル＆
サイエンティフィック
オフィサー (CMSO)

社外取締役



坂根 正弘

社外取締役
取締役会 議長
指名委員会 委員長



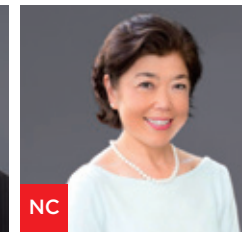
ミシェル・オーシンガー

社外取締役



志賀 俊之

社外取締役
報酬委員会 委員長



東 恵美子

社外取締役



藤森 義明

社外取締役

監査等委員である取締役



山中 康彦

取締役
監査等委員



国谷 史朗

社外取締役
監査等委員会 委員長



初川 浩司

社外取締役
監査等委員



ジャン=リュック・ブテル

社外取締役
監査等委員

(2018年7月現在)

 指名委員会
Nomination Committee


 報酬委員会
 Compensation Committee

取締役会の独立性をより高めるため、独立社外取締役が取締役会の議長を務めます。また、社内取締役候補者の選任や取締役（社外取締役を除く）の報酬等の妥当性と決定プロセスの透明性を担保するため、取締役会の諮問機関として、社外取締役を委員長とし、社外委員が過半数を占める指名委員会・報酬委員会を設置しています。

タケダ・エグゼクティブ・チーム

TAKEDA EXECUTIVE TEAM (TET)

日本



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長
チーフエグゼクティブ
オフィサー (CEO)



岩崎 真人
取締役
ジャパン ファーマ ビジネス
ユニット プレジデント



コスタ・サルウコス
チーフ フィナンシャル
オフィサー (CFO)



トーマス・ウオスニフスキー
グローバル
マニュファクチャリング
& サプライ オフィサー



平手 晴彦
コーポレート・
コミュニケーションズ &
パブリックアフェアーズ
オフィサー



中川 仁敬
グローバル
ジェネラルカウンセル



パドマ・ティルヴェンガダム
チーフ
HR オフィサー



ジャイルズ・プラットフォード
ヨーロッパ・カナダ ビジネス
ユニット プレジデント

スイス

米国



アンドリュー・プランプ
取締役
チーフ メディカル
& サイエンティフィック
オフィサー (CMSO)



クリストフ・ピアンキ
グローバル オンコロジー
ビジネス ユニット
プレジデント



ジェラード・グレコ
グローバル
クオリティ オフィサー



リカルド・マレック
エマージング マーケット
ビジネス ユニット
プレジデント



ラモナ・セケイラ
US ビジネス
ユニット プレジデント



ラジーヴ・ヴェンカヤ
グローバル ワクチン
ビジネス ユニット プレジデント

シンガポール

(2018年7月現在)

タケダ・エグゼクティブ・チーム (TET) は、社長CEOであるクリストフ・ウェバーと、社長CEOへのレポートラインを有するメンバーから構成され、各メンバーは、タケダグループの経理・財務、人事、法務、広報、研究開発、製造・品質の各機能ならびに日本、米国、欧州・カナダ、新興国の各販売地域およびオンコロジー、ワクチンの各専門領域のビジネスユニットを統括しています。

* 国名は拠点、国旗は国籍を示しています。

多様な人材

EMBRACING DIVERSITY & INCLUSION

イノベーションに立脚した研究開発型企業であるタケダにとって、組織に高い創造性や柔軟性、対応力をもたらすダイバーシティ&インクルージョン (D&I) の推進はきわめて重要です。

タケダは、性別・年齢・障がい・国籍・人種・性的指向、さらには性自認・宗教・経験・信念・価値観・ライフスタイルにかかわらず、従業員一人ひとりにそれぞれの能力と熱意に応じた成長の機会を提供できる企業であることを目指しています。

従業員の多様性をもたらす
ユニークな視点を活かし、
世界中の患者さんにより一層貢献する

タケダの地域別従業員構成比



● 35%	新興国
● 27%	日本
● 21%	欧州・カナダ
● 17%	米国



30,000

約3万人の従業員が
世界中で働いています



30+

30を超える言語・方言が
話されています

多様性推進への取り組み (日本)

- 女性従業員同士でキャリア形成をサポートし合えるネットワーク「はなみずき」
- それぞれが働きやすい時間や場所で働けるフレキシブル・ワークスタイル・プログラム
- 高いパフォーマンスを発揮する従業員の早期昇進を推進

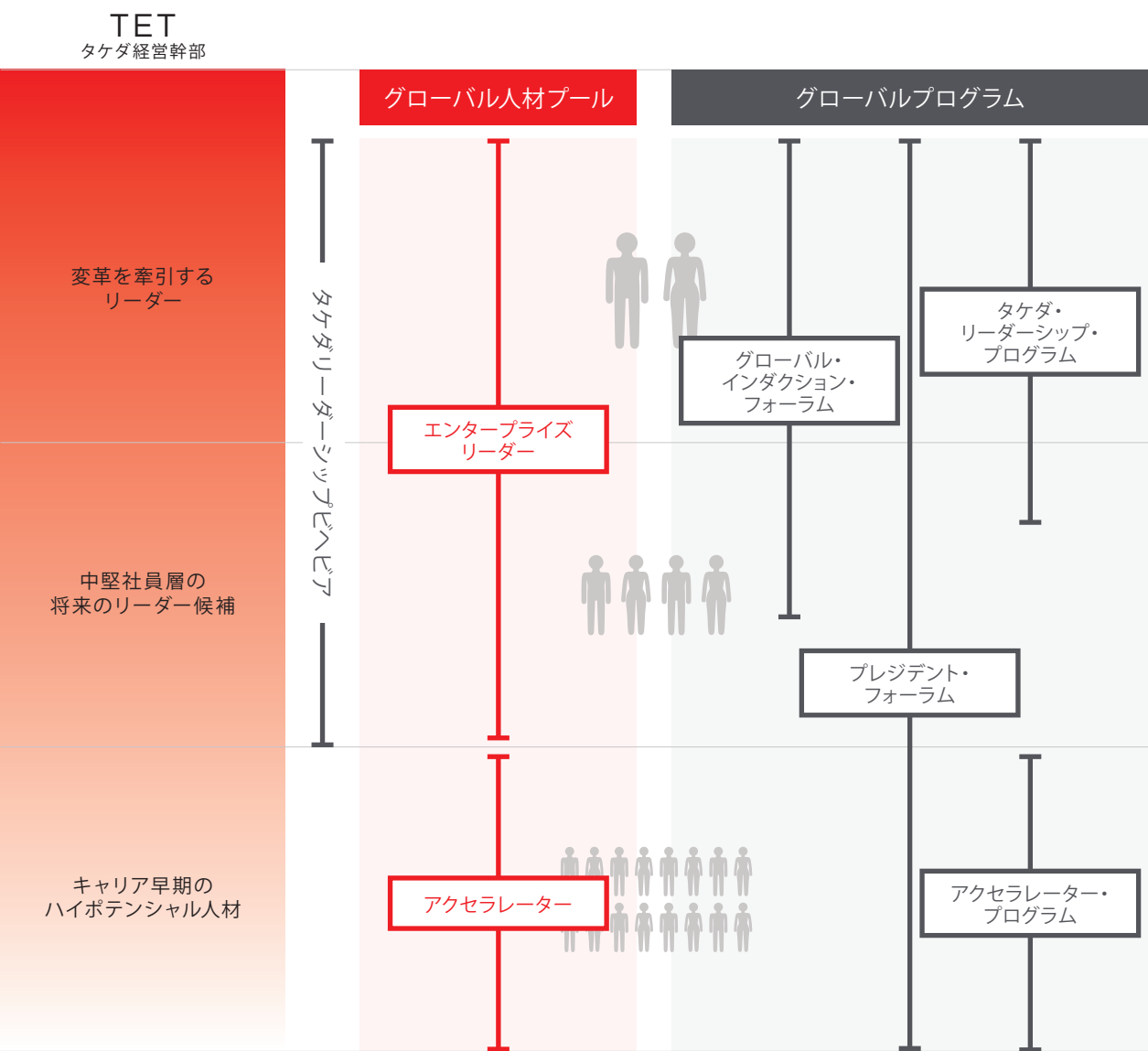


次世代リーダー育成への取り組み

TALENT DEVELOPMENT

一人ひとりの成長が強い組織を作る

タケダでは、医薬品を通じて人々のいのちに貢献するという高い志のもと、仲間とともに切磋琢磨する機会にあふれた職場環境を提供しています。一人ひとりのスキルや知識をさらに高める人材育成プログラムや、未来のタケダ、さらには製薬業界を牽引するグローバルリーダー育成プログラムに継続的かつ戦略的に取り組んでいます。



部門・機能・地域ごとのリーダーシップ開発コースおよび人材育成プログラムも別途設定
(例：研究開発・ファイナンス・新興国事業など)

主要な人材育成プログラムと育成フォーカス		
タケダリーダーシップビヘビア 変革のリーダーシップに求められる要素	プレジデント・フォーラム 当事業を牽引する未来のリーダーを現経営幹部が育成	タケダ・リーダーシップ・プログラム 当事業について社内外の視点から議論することを通じて、リーダーシップ能力を向上
アクセラレーター・プログラム 高いポテンシャルをもつ従業員の国際的かつ部門横断的なキャリア構築を促す	グローバル・インダクション・フォーラム 最近入社したシニアリーダーへの入社研修	

03 RESEARCH & DEVELOPMENT

研究開発

イノベーションで、世界を変える

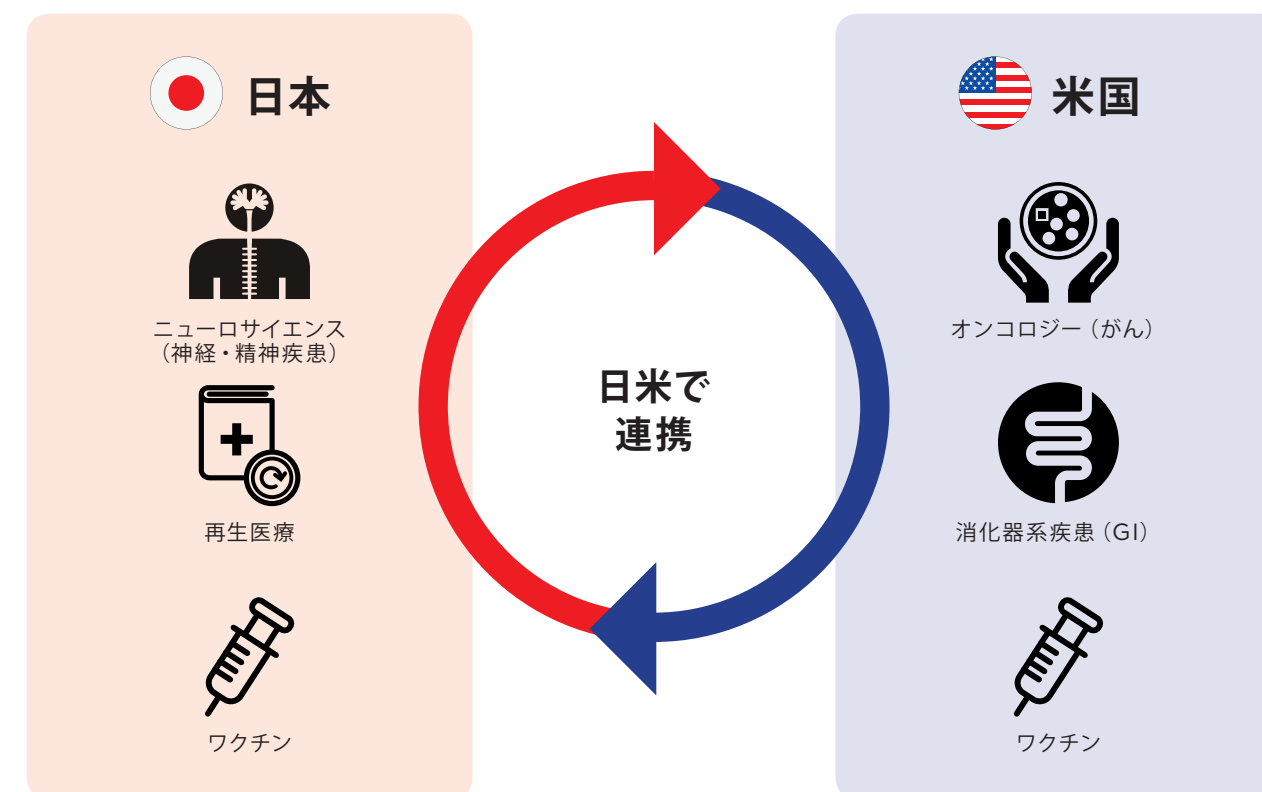


イノベーションを創出することが、タケダ R&Dの使命です。私たちの研究所から世界中の患者さんに革新的な医薬品をお届けすることを目指し、創薬の研究開発に取り組んでいます。

研究開発への取り組み

OUR RESEARCH

領域を絞って専門性を強化し、患者さんのニーズに応える真のイノベーション創出に挑戦し続けます。オンコロジー（がん）、消化器系疾患（GI）、ニューロサイエンス（神経・精神疾患）の三つの重点疾患領域に絞りこみ、真にイノベティブ（革新的）な医薬品を創出するための研究活動に取り組んでいます。また、世界トップレベルのワクチン開発力を生かし、新規開発技術や最先端を走るパートナーとともに、公衆衛生の向上にも貢献していきます。



オンコロジー（がん）

世界中のがん患者さんによりよい未来をもたらす革新的な新薬をお届けするために、あくなき情熱をもって科学とイノベーションの探求に取り組んでいます。患者さんへの想いを原動力に、真にイノベティブなオンコロジー（がん）の治療薬を創出し、開発し、届けていきます。



消化器系疾患（GI）

タケダは25年以上にわたり、消化器系疾患（GI）領域において、革新的な医薬品や患者支援プログラムを提供し続け、患者さんに貢献してきました。タケダは、GI領域のリーディングカンパニーとして、炎症性腸疾患、消化器系の酸関連疾患、消化管運動障害など、未だ満たされていない医療ニーズが高い疾患への取り組みを進めています。



ニューロサイエンス （神経・精神疾患）

神経・精神疾患は、メンタルヘルスに影響を与える、複雑で多面的な疾患です。この領域において、治療法がない疾患や、稀な疾患の患者さんに新たな治療薬を提供することが、私たちの使命です。



ワクチン

ワクチンは、世界の公衆衛生を飛躍的に向上させてきました。タケダでは、世界トップレベルのワクチンチームが、革新的な開発プラットフォームを活用し、また、最先端を走るパートナーとのコラボレーションを通じ、未だ満たされていない医療ニーズに応える対感染症ワクチンの開発に取り組んでいます。

R&Dパートナーシップとコラボレーション

PARTNERSHIPS AND COLLABORATIONS

タケダは、最先端を走る社外パートナーとの共同研究や提携を世界中で実施しています。患者さんのニーズが高く、かつ、当社の科学的知見・専門性のさらなる深化につながる疾患領域において、革新的な医薬品の創出に取り組めます。

戦略的 パートナーシップ

2017年度は56件の新たな
コラボレーションを開始

(2018年5月時点)



湘南ヘルス イノベーションパーク (湘南アイパーク)

タケダのR&D拠点の一つである湘南研究所を、ベンチャーセグメントを含む産官学に開放したヘルスイノベーションパークとしてグランドオープン

(12ページ参照)



Takeda-CiRA Joint Program for iPS Cell Applications (T-CiRA)

京都大学iPS細胞研究所と10年間にわたる共同研究を締結、iPS細胞技術の医療応用に取り組んでいます。



タケダは、世界初のiPS細胞に特化した研究機関である京都大学iPS細胞研究所(CiRA)と、10年間にわたる共同研究(T-CiRA)を実施しています。タケダの湘南ヘルスイノベーションパークを拠点に最先端の科学・医療技術を集め、iPS細胞を使った革新的な細胞治療・新薬開発・新薬安全性試験の研究開発に取り組んでいます。

T-CiRAプログラムは、幹細胞の研究でノーベル賞を受賞したCiRAの山中伸弥教授が指揮しています。

T-CiRAは、iPS細胞技術の臨床応用を目指した共同研究プログラムです。難治性疾患などニーズの高い領域の治療に革新をもたらすことを目指しています。

- ・がん
- ・神経変性疾患
- ・難治性筋疾患
- ・心不全
- ・1型糖尿病

また、iPS細胞を用いた創薬・細胞治療の開発にも取り組んでいます。





2018年春、約3年間の建設期間を経て「武田グローバル本社」が東京都中央区日本橋本町に竣工しました。100年以上も前に事業拠点としていた縁の地です。タケダの価値観（バリュー）を未来に継承する象徴となるグローバル本社を拠点に、日本に本社を置く研究開発型グローバルバイオ医薬品企業への変革をいっそう加速します。

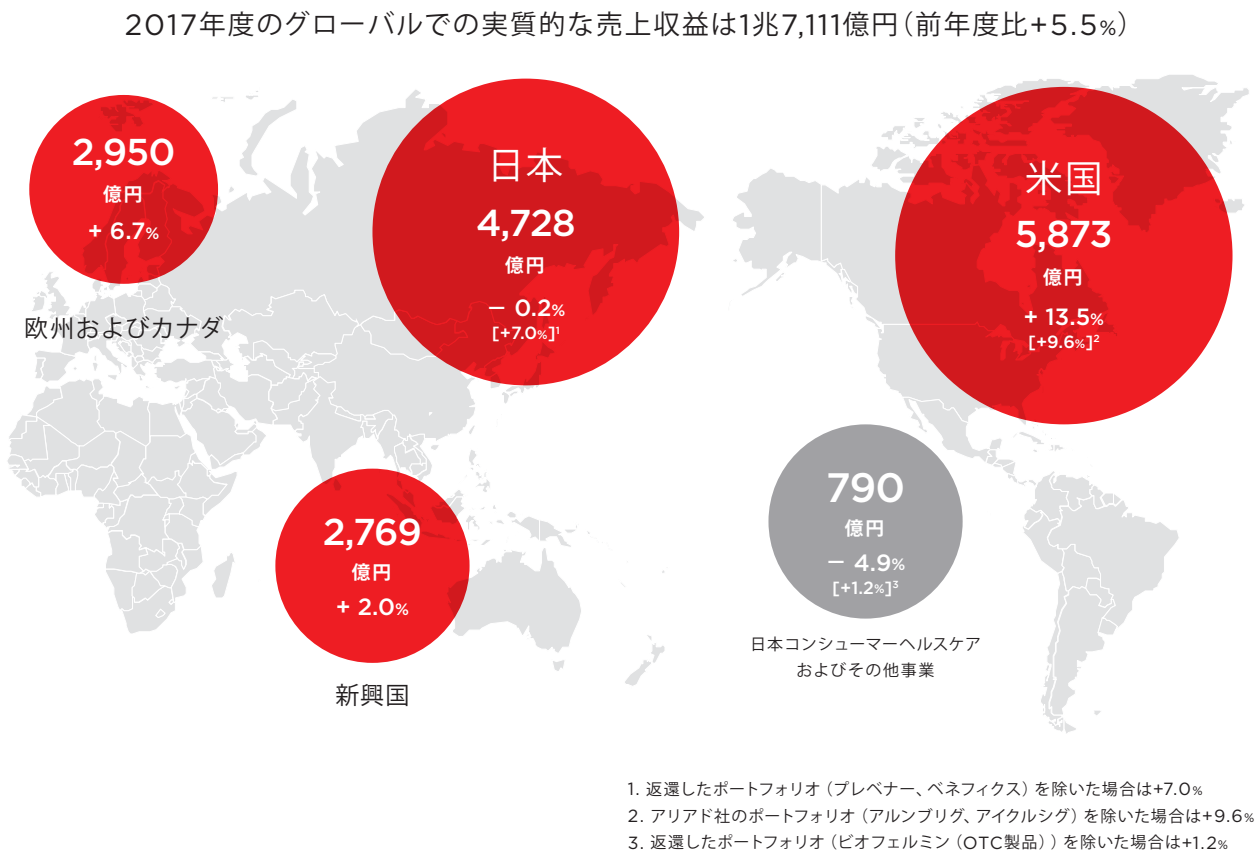
04 BUSINESS PERFORMANCE

事業の持続的成長

より良い事業慣行の追求こそ、
持続的成長の源泉

2017年度地域別の実質的な売上収益 (％は対前年度比)

FY2017 UNDERLYING REVENUE



変革がもたらす優れた成果

- 優先的な事項にフォーカス

事業ポートフォリオの成長

研究開発パイプライン (新薬候補群) の強化

利益率の向上

- 2017年度実績は優れた実行力を反映
 財務ベース：売上収益+2.2%、営業利益+55.1%、EPS+62.7%
 実質ベース：売上収益+5.5%、CE +40.2%、Core EPS+44.8%
 CEの対売上収益比率の向上+420bps
- 売上収益比率を毎年100-200bps向上させることにコミット
- 2018年度は力強い実質的なビジネスがベルケイドの減少影響を吸収
- タケダの価値観に基づく持続的な成長

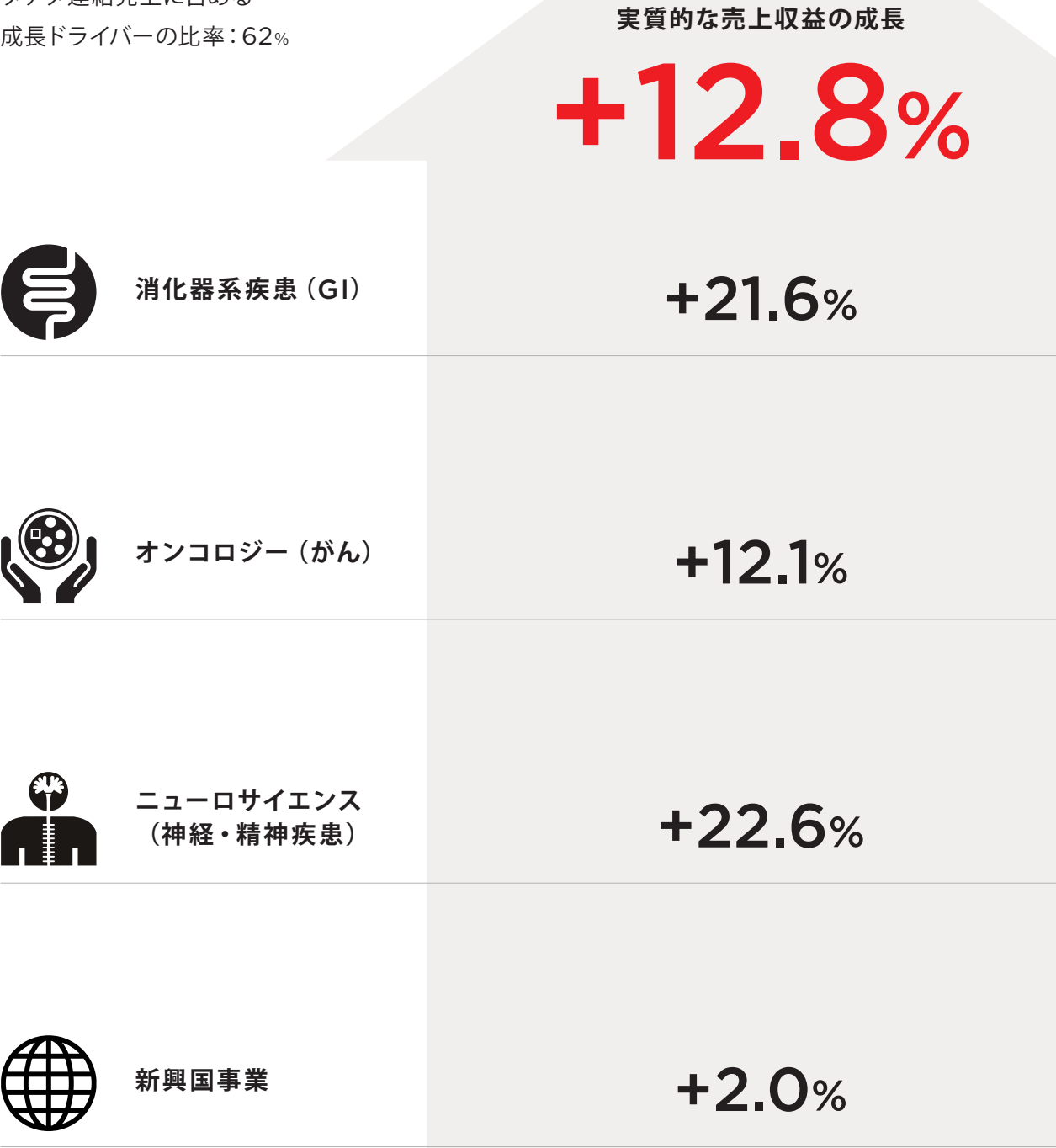
備考：実質的な成長：持続的な事業活動のパフォーマンスを実質的に把握する目的で、当期と前年同期の業績を共通の基準で比較したものであり、為替影響および事業等の売却影響を除く。Core Earnings (CE)：売上総利益から販売費及び一般管理費、および、研究開発費を控除して算出する。さらに、非定期的もしくは本業に起因しない（ノン・コア）事象であり、かつ、金額の大きい影響を調整する。

タケダの成長ドライバー

TAKEDA'S GROWTH DRIVERS

成長ドライバーが約+12.8%伸長し、売上収益は増収

タケダ連結売上にも占める成長ドライバーの比率：62%



企業の社会的責任

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY (CSR)

タケダのCSRは、優れた医薬品の創出を通じて患者さんに貢献することを根幹としており、事業プロセスの誠実な実践を通して社会の持続可能性を高めることに貢献していきます。

「持続可能な開発目標（SDGs※¹）」の達成に向けた
パートナーシップを重視

※1 Sustainable Development Goalsの略称



国連グローバル・コンパクト（GC）※²加盟企業として、国際社会と連携し、タケダはすべてのSDGs、特に目標3「人々の健康」の実現に取り組んでいます。

※2 持続可能な成長を実現するための世界的枠組み



BENEFICIARIES

1,696万人

世界中の従業員による投票で選定された
2016年度からグローバルCSRプログラムで
見込まれる受益者数は約1,696万人。

LONG-TERM COMMITMENT

約43億円

東日本大震災の被災地に対する
寄付による長期的支援

NGOやNPOによる復興支援プログラムの運営
に、約43億円の寄付金を拠出（プログラム実施
期間は2011年～2020年）

PARTICIPATION

11,000+人

世界中の従業員11,000人以上が投票に参加し、
2018年度から始まるグローバルCSRプログラム
を決定。（38-39ページ参照）

約59億円

3年間 10年間

グローバルCSRプログラムの総予算として
約59億円を拠出

グローバルCSRプログラム

TAKEDA GLOBAL CSR PROGRAM

タケダは、疾病予防、保健人材の育成、医療アクセスにおける中長期的な取り組みを通じて途上国・新興国の人々の健康に貢献します。グローバルCSRプログラムは、全従業員による投票で決定されます。

2016



10 YEARS

© UN Foundation



「はしか」予防接種のグローバル展開プログラム

540万人の子どもに「はしか」ワクチン接種を目指す。

予算: 10億円
開始: 2016年
期間: 10年間
対象地域: アフリカ
アジア
南米の約40カ国



5 YEARS

© World Vision Japan



地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム

1,400人のヘルスワーカーの能力を強化し、約50万人に保健医療に関する知識とサービスを提供。

予算: 5億円
開始: 2016年
期間: 5年間
対象地域: インド
バングラデシュ
ネパール
アフガニスタン



5 YEARS

© Save the Children



少数民族の母子を対象にした保健支援プログラム

4万人の少数民族の母子を含む15万人の地域住民への保健教育、研修、サービスを提供。

予算: 2.5億円
開始: 2016年
期間: 5年間
対象地域: ラオス
ミャンマー
ベトナム

2017



5 YEARS

© UNICEF/Rwanda



「人生最初の1,000日」への保健・栄養プログラム

のべ130万人の母子に質の高い医療サービスへのアクセスや栄養改善を支援。

予算: 10億円
開始: 2017年
期間: 5年間
対象地域: ベナン
マダガスカル
ルワンダ



5 YEARS

© Plan International



南スーダンとシリアの難民対象の包括的保健プログラム

子どもの栄養改善、母親と乳幼児の健康改善、安全な水の供給などを包括的に実施し、南スーダンとシリアの難民の健康状態を改善することを目指す。

予算: 10億円
開始: 2017年
期間: 5年間
対象地域: エジプト
エチオピア
ヨルダン
レバノン
南スーダン
スーダン
ウガンダ



5 YEARS

© JOICFP



アフリカの妊産婦と女性の命を守る

2,000人の保健ボランティアを含む保健医療従事者を育成し、約60万人の地域住民に保健に関する正しい知識と適切なサービスを届け、女性の命を守ることを目指す。

予算: 7.5億円
開始: 2017年
期間: 5年間
対象地域: ガーナ
ケニア
タンザニア
ザンビア

2018



3 YEARS

© Last Mile Health



コミュニティ・ヘルス・ワーカーの育成 遠隔地を理由に人命が失われない世界へ

コミュニティ・ヘルス・アカデミーにおける30種の救命技能トレーニングを通じて、世界で8,000人のコミュニティ・ヘルス・ワーカーの養成を目指す。

予算: 4億円
開始: 2018-19年
期間: 3年間
対象地域: 全世界



5 YEARS

© Seed Global Health



サハラ以南のアフリカ諸国の医療専門家5,000名 トレーニングプログラム

5,000人の医師、看護師、助産師の教育、トレーニング、指導を支援することを目指す。

予算: 5億円
開始: 2018-19年
期間: 5年間
対象地域: サハラ以南のアフリカ諸国



5 YEARS

© UNICEF/Togo



サハラ以南のアフリカ諸国における保健システムの強化

持続可能な形で保健システムを強化することで、160万人の乳幼児と424,000人の妊婦を含む850万人の人々の命と健康を守ることを目指す。

予算: 5億円
開始: 2018-19年
期間: 5年間
対象地域: アンゴラ
ギニア
トーゴ

医薬品アクセスへの取り組み

ACCESS TO MEDICINES

タケダは、グローバルヘルスの強化に向けた様々な取り組みを進めており、その一環として医薬品アクセス(AtM)戦略を策定し、持続的なアプローチにより、患者さんが必要としているケアや治療薬へのアクセス向上に取り組んでいます。

患者さんの生命を救う可能性のあるタケダの革新的な医薬品を、治療費用の全額を負担することが困難な場合でもアクセスできるようにするものであり、かつ、既存の医薬品事業の枠組みに留まらず、疾患啓発、診断能力や専門性の高い医療の強化、患者さんへのアフターケア等、包括的な取り組みを進めています。



ヤナさん、患者
国立がんセンター（ウクライナ）

負担能力に応じた患者支援プログラム（PAPs）

PAPsは、医療システムが発展途上にある国々において、タケダの革新的なスペシャルティ・ケア（専門性の高い治療領域）の医薬品を処方された患者さんに、個々の医療費の負担可能能力に基づいて費用を負担いただき、残りの費用をタケダならびに他のパートナーの支援を通じて拠出することで、患者さんが必要な治療を受け、完了できることを目指す革新的なプログラムです。現在、東欧、中南米、中東、東南アジア、サブサハラ諸国の13ヵ国に位置する17以上のPAPsに患者さんが登録されています。



マグダレンさん、地域保健師
ナメロク・ヘルスセンター（ケニア）

既成の医薬品事業の枠組みに留まらない 問題解決へのアプローチ

私たちの医薬品アクセス向上への取り組みは、十分な医薬品の入手可能性に対する取り組みなど既成の医薬品事業だけではなく、多岐にわたった支援を提供しています。例えば、フィリピンやウクライナにおける、がんの認知度や診断を向上させることによる医療の強化、中南米における医療や治療計画の順守を向上させる患者支援プログラム、サブサハラ諸国における医療関係者や地域医療従事者の訓練などです。



医師 フィリピン国立総合病院がんセンター
（フィリピン）

パートナーシップを通じた医薬品アクセス 向上への取り組み

タケダはまた、パートナーシップを通じた医薬品アクセスの向上にも取り組んでいます。例えば「Blue Print for Success」は、国際的な課題である非感染症疾患（Non-Communicable-Diseases:NCD）への対応を強化するステークホルダーエンゲージメントです。2017年には、この取り組みによって世界中の様々な分野・業界から300人以上の専門家が結集し、協働の機会が生み出され、医薬品アクセスを改善する具体的な計画が立案されました。

世界のあらゆる場所で、患者さんのニーズに応じていくために、国際社会と連携し、疾病予防を通じて、グローバルヘルスの重要課題に取り組んでいます。



低所得の国・地域における非感染症疾患の予防の向上に取り組んでいます。



流行の恐れのある感染症の予防ワクチン開発のための資金調達や開発支援をしています。



Global Health Innovative Technology Fund

途上国における感染症の予防策に、日本発祥のイノベーション、資本力、リーダーシップを提供しています。

タケダは、237年の歴史と伝統を胸に、これからも、果たすべき使命に向かってひたむきに歩んでいきます。

たったひとつの「いのち」が紡ぐ、

たったひとつの人生のものがたりに、

もっと健やかで明るい未来をお届けするために、

今まで以上に、何ができるか？

タケダの挑戦は、続きます。

Better Health, Brighter Future

最新情報は、ウェブサイトをご覧ください。

会社情報: [Takeda.com/jp/who-we-are/](https://www.takeda.com/jp/who-we-are/)

ニュースルーム: [Takeda.com/jp/newsroom](https://www.takeda.com/jp/newsroom)

タケダのポジション: [Takeda.com/jp/who-we-are/company-information/positions/](https://www.takeda.com/jp/who-we-are/company-information/positions/)

お問い合わせ先

武田グローバル本社
〒103-8668 東京都中央区日本橋本町二丁目1番1号
Tel: 03-3278-2111
Fax: 03-3278-2000

URL
[Takeda.com/jp](https://www.takeda.com/jp)

